

# 令和7年度 第1回南アルプス市地域公共交通会議議事録

日時：令和7年6月3日（火）

午後1時30分から

場所：南アルプス市役所

新館 第1会議室

出席者

委員：19名

アドバイザー：鈴木文彦

事務局：4名

## 目次

1.	開会	- 1 -
2.	委嘱状交付ならびに自己紹介	- 1 -
3.	事務局紹介	- 1 -
4.	役員選出	- 1 -
5.	会長挨拶	- 3 -
6.	議事	- 3 -
	(1) 地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について	- 4 -
	(2) 南アルプス市コミュニティバスの運行について	- 4 -
	(3) 櫛形西地区コミュニティタクシー「そよかぜ号」の運行について	- 4 -
	(4) 令和6年度収支決算書および監査報告について	- 5 -
	(5) 令和7年度収支予算（案）について	- 5 -
	(6) 南アルプス市デマンド型交通の導入検討に向けた実証運行（案）について	- 6 -
	(7) 南アルプス市地域公共交通計画の評価等結果について	- 8 -
	(8) その他	- 8 -
7.	その他	- 9 -
8.	講評	- 9 -
9.	閉会	- 11 -

## 1. 開会

---

《事務局》

皆さんこんにちは。定刻となりましたので、ただいまより、令和7年度第1回南アルプス市地域公共交通会議を開会させていただきます。本日はお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。

会議の進行を務めます市民活動支援課の清水と申します。よろしくお願いいたします。

最初に、地域公共交通会議につきまして説明させていただきます。

資料の26ページをご覧ください。こちらが南アルプス市地域公共交通会議の条例になります。

第1条、この会議は地域における需要に応じた住民の生活に必要なバス等の旅客輸送の確保その他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項や、地域公共交通計画の実施に関し、必要な事項を協議していただくため、設置しています。

第3条になります。交通会議の委員には、交通事業者、地域の関係機関、地域の住民の代表者などで組織しています。委員の任期につきましては、2年間となり、令和9年の3月末までとなっています。

## 2. 委嘱状交付ならびに自己紹介

---

《事務局》

続きまして、次第の2番になります委嘱状の交付をいたします。

委員の任期が今年3月末で満了となりましたので、新たに委員の委嘱をさせていただきます。本来であれば、委嘱状または任命書については、お1人ずつお渡しすべきところありますが、各席にお配りさせていただいております。

次に、委員の自己紹介をしていただきますので、順番に所属と氏名をお願いいたします。

《各委員自己紹介》

## 3. 事務局紹介

---

《事務局》

ありがとうございました。次に事務局の紹介を行います。

《事務局紹介》

## 4. 役員選出

---

《事務局》

次に役員選出になります。

会長につきましては、資料30ページの南アルプス市地域公共交通会議規約第8条第1項により、委員の互選により選出するとあります。

昨年度までは、内田副市長が会長を務めておりましたが、本年度はいかがいたしましょうか。

《委員承認》

《事務局》

はい、ありがとうございます。それでは、南アルプス市地域公共交通会議の会長は、引き続き内田副市長をお願いいたします。

次に副会長の選出を行います。

副会長につきましては、規約第8条第3項により、委員のうちから会長が指名するとあります。内田会長、いかがいたしますか。

《会長》

副会長については、これまでも一般社団法人山梨バス協会の専務理事である篠原様をお願いをしていた経過があります。

今年度も委員としてこちらに出席しておられますので、同じく副会長をお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

《委員承認》

《事務局》

それでは、副会長については篠原勇委員をお願いいたします。

会長副会長は、前の席へお願いします。

次に、規約第10条第1項に基づき、監事の選出を行います。

1名につきましては、南アルプス市会計管理者といたしますが、あと1名については、いかがいたしますか。

《委員》

事務局案でどうでしょうか。

《事務局》

ありがとうございます。

それでは、これまでも監事をしていただいた、南アルプス市自治会連合会会長である新津洋様をお願いいたします。

## 5. 会長挨拶

---

《事務局》

続きまして、次第の5番、会長挨拶です。内田会長お願いいたします。

《会長》

改めましてこんにちは。お昼の忙しい時間、天候の悪い中集まっていただきまして誠にありがとうございます。

2年間の役員ということで、改めてお願いをしたところであります。

南アルプス市の公共交通につきましては、計画書を作って、随時進行しています。

皆さんご存じのように、今年4月11日にコストコがオープンをしまして、市内の交通環境が大きく変わるかなと思いましたが、コストコ自体は常に盛っておりまして、売り上げも非常にいいと聞いております。渋滞については、オープンの初日も含めて、朝、非常に人が並びましたけれども、交通渋滞が大きく発生したという状況ではありません。細かいことで言いますと、市内の今まで車が通らなかった細かい道路に車が通って、地域の方から、今までにないような状況で少し迷惑だというようなお話もありました。市の方でも色々な看板設置等に対応する中で、大きな問題も継続されずに、今のところ苦情がない状況で進んでおります。

しかしながらこのような状況の中で、市内の交通環境というのは徐々にまた変わってくる可能性もあります。この公共交通会議の中で、南アルプス市コミュニティバスを含めた交通環境が少しでも改善され、前に進んでいけるように、皆さんのご意見を伺う中で、会議を進めてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

## 6. 議事

---

《事務局》

ありがとうございました。続いて議事に入ります。

会議の議長については規約第11条により、会長が議長となることとなっておりますので、内田会長お願いいたします。

《会長》

それでは早速議事に入らせていただきたいと思います。

議事が（1）からその他の（8）まであります。まず最初に議事としまして、第1号議案の、地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について、ならびに第2号議案の南アルプス市コミュニティバスの運行について、また第3号議案の楡形西地区コミュニティタクシー「そよかぜ号」の運行については、事務局から一括で説明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

- (1) 地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について
- (2) 南アルプス市コミュニティバスの運行について
- (3) 櫛形西地区コミュニティタクシー「そよかぜ号」の運行について

《事務局説明 資料p1～p18》

最後にまとめさせていただきますが、コミュニティバスやそよかぜ号の利用者増加に関する要因は、いくつかの工夫や取り組みによるものと考えられます。

具体的に3つ紹介させていただきます。

- 1 市としては、バスの運行ルートや時刻の見直しを行い、市民の方々が利用しやすいように調整しております。今回も14ページで説明しましたが、fumottoへの乗り入れを開始したり、6号車八田・甲西線の1便の運行時刻を5分早めたりして、より多くの方々が利用できる環境を整えております。
- 2 利用増加の工夫。市内保育所を対象とした体験乗車や未就学児を対象に、コミュニティバスを利用して、児童館へ行く企画を立てております。これにより、子供たちがバスに乗る経験を通じて、公共交通への親しみを持つことができ、将来的な利用者増加に繋がると期待されております。さらに、保護者にとっても、子供と一緒に公共交通を利用する機会が増えることで、コミュニティバスの利用促進に繋がります。
- 3 今、どの公共交通でも実施しておりますが、高齢者や障害のある方など、移動に制約がある方々へ、ノンステップバスを導入するなどの配慮も重要で、誰もが利用しやすい公共環境を整備しております。これにより移動手段が限られている方も安心して利用できるようになり、結果として利用数の増加に繋がっております。

以上のような取り組みが、コミュニティバスの利用者増加を図っており、本市としては、今後も引き続き市民の方々に耳を傾けながら、利便性向上に努めて参ります。

これからも、地域住民が安心して利用できる交通手段として、コミュニティバスの充実を図っていく所存でございます。

以上で説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

《会長》

事務局の説明が終わりました。ここで皆さんに質疑応答の時間を取りたいと思います。

議案の(2)と(3)については、基本的には報告事項であったと思います。議案(1)につきましては、翌年度の確保計画案ということですから、委員の皆さんにご意見をいただく中で承認をいただく必要があるかと思っておりますので、何か今の説明の中で確認したい点、ご意見等がありましたら、お願いをしたいと思います。

基本的には少しずつではありますが、利用者が増えてきているというような状況の説明であったかと思えます。そんな中で、何かご意見がなければ、ただいまの事務局の説明で承認をいただいたということで、翌年度の計画を確定させていきたいと思えますけれどもよろしいでしょうか。

それでは特にご意見はないようですから1、2、3号議案については承認をいただいたということで、第4号議案に移りたいと思えます。

#### **(4) 令和6年度収支決算書および監査報告について**

《事務局説明 資料p19》

一昨年、令和5年度に南アルプス市公共交通計画を策定するための費用の支出がありました。差引残額は0円として決算をしましたが、令和6年8月13日に利息がつき、利息155円を雑入として収入決算に計上いたしました。支出はありませんでしたので、支出の決算は0円となります。従って、令和6年度南アルプス市地域公共交通会議、歳入歳出決算を、次の通り報告します。

収入合計155円、支出合計0円、差引残額155円となります。

《監事》

今の報告を受けまして南アルプス市地域公共交通会議の規約第10条によって、会計監査を実施したので報告します。

監査の結果、諸帳簿、証拠書類の処理も適切であり会計が正確であることを認めます。先日、5月28日に監事兩名で監査を行いました。

《会長》

決算の報告と、監査報告をありがとうございました。

ただいま報告のあった決算ならびに監査報告について、特にご意見があれば、お願いしたいと思えますけれども。よろしいでしょうか。

では決算等については承認をされたということで、次の議案に移りたいと思えます。

#### **(5) 令和7年度収支予算（案）について**

《事務局説明 資料p20》

地域内フィーダー系統の補助金は、昨年度までは運行事業者である山梨交通様に交付されておりました。しかし、制度の変更により、この補助金は運行事業者ではなく、地域公共交通会議に交付されることとなりました。

そこから、南アルプス市に負担金として支払い、補助金を差し引いた運行委託料が南アルプス市から山梨交通へ支払われるということとなります。従って、今年度は、地域内フィーダー系統の補助金が一旦、地域公共交通会議に入ってくるので収支予算案を提出させ

ていただきます。

《会長》

今年度から会計の方法が変わったということで、令和7年度の予算案の説明がありました。委員の皆さんからご質問、ご意見等あればいただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

特にご意見もないようですから第5号議案の予算案につきましては承認をいただいたということで、議事を進めさせていただきます。

## (6) 南アルプス市デマンド型交通の導入検討に向けた実証運行（案）について

《事務局説明 資料p21~p24》

《会長》

この案件については新たな取り組みでありますので、かなり課題もあるし、難しい問題でもあるかなとも思います。この地域公共交通会議の中で策定した南アルプス市地域公共交通計画の中で、デマンド型交通については検討していくという、この会議の中で定めた目標でもありますので、無理せずということはあると思っておりますけれども、実証ないし検討を重ねていく必要があるんだろうなと思っております。

詳細な計画案が示されておりませんので、具体的な質問は難しい部分もあると思っておりますけれども、来年度の令和8年度に実証実験ということですが、取り組んでいくまず第一歩の会議でありますから、いや、こんなこと等は難しいんじゃないかとか、どうだろうかというようなご意見があらうかと思っておりますので、できたら積極的に意見をいただきたいと思っております。お願いします。

《委員》

地域内フィーダー系統と、あとデマンドの方の将来的な連携とかっていうところも、今回いろんな検証の中で、それをやっていくということなんでしょうか。

《会長》

事務局回答できますか、これからの構築だと思っておりますけれども。

《事務局》

これから考えていきたいと思っております。

《会長》

当然コミュニティバスを運行してますから、いろんなタクシー券も含めて、いろんな交通の手段をどう考え、組み合わせていって一番いい利用方法になるかということを検討していく必要はあると思っております。目的地はどこに定めるのかとか、本市の地域性から見てど

ういう形状がいいのかということを含めて、1月ですか、次のときには一応案を示していくということですから、今いただいたような意見も踏まえて、答えになるかどうかわかりませんが、案を出すようなことを進めていただきたいと思います。

それ以外にまた1月の会議までに検討する必要がありますので、こんなことがいいんじゃないかとか、こんなことが懸念されるとかご意見あれば、お伺いをしたいと思います。

《委員》

このデマンドの利用対象者に高齢者他市民とあるんですけども、これは市民じゃない？

《事務局》

市民になります。高齢者をまず中心に考えようと思っていて、書き方的には他市民とありますが、これは市民です。

《会長》

他、いかがですか。

《委員》

私は今回初めてこの会議に出たもので、前の経緯についてはわかりませんが、コミュニティバスが始まってもう結構経ちますよね。10年。それと総括というような形で、ある程度まとめたものがあるんじゃないかと思うんですけど。今回こういった地域を限定して、デマンドを導入するということですが、コミュニティバスの検証をした結果、それが本当に9万人が使ってるってことで、これは延べ人数です。それを365日で割れば、大した数の人が使っていると私は思います。

よく市民からは、空気を運んでいますと揶揄されることもありますけれど、市として取り組んでいて、国の補助が出ていることだし、しかし、その莫大な金を使って、そのコミュニティバスが本当に地域の人たちが、望んでいる形でしょうか。

それよりも今、民間交通が行っているデマンド型のタクシーがありますよね。そういったものを導入することによって、もっとより住民に細かく対応できる制度が同じ予算の中でできるんじゃないかということをおもうんですけど、それについて検討はされていますか。

《会長》

基本的には、今回のコミュニティバスの検証も含めて令和6年度に交通計画を作った段階では、検証して今後の計画を練ったというのは事実です。

これは、その検証を踏まえて公共交通計画を作ってますので、人数については、徐々に増えてきてるけれどもまだまだ足りないかどうかというものは別として、それを踏まえて、さらに、今委員さんがおっしゃられたデマンド交通を検討する必要があるということ、計画書の中で出しておりますので、先ほど質問にあったように、コミュニティバスとデマンド交通をどのように組み合わせていけば効果的だったのかなということを検討してるんだと思いますけれども、私の説明で足りなければ事務局、説明をお願いします。

《事務局》

このデマンド型交通は令和8年度実証運行するにあたって、コミュニティバスと検証をしていきたいと思います。

《会長》

加えて予算の話については、デマンドバスは私もこの立場にしながら、必ずやるかどうかも含めて、本市の予算であったり、利用状況の予測であったり、地域性に応じての検証なので、答えありきで必ずやりますという状況を今言ってるわけではなく、計画をして、検証をして、効果的な方法があれば本番につなげていきたいということですから、あくまでも検証をしていきたいということだと思います。

最初言ったように、非常に難しい問題でうまくいくかどうかはわかりませんが、他市の事例も踏まえながら、すべてが成功してる状況ではないと思いますので、検討を加えていきたい。1月の会議ではそういうことも踏まえて、事務局から案をいただければと思っています。

また何か質問、あるでしょうか。

よろしいですか。非常に難しい問題なので、事務局からできるだけ良い案を1月に提案、説明をしていただいて、こういう実証実験をするならという納得をいただけるような案を出していただきたいと思います。そういうことで、次の会議までに実証実験の案を出していただくということでご了解をいただいたということで、議案を締めさせていただきたいと思います。

## (7) 南アルプス市地域公共交通計画の評価等結果について

《事務局説明 資料p25》

《会長》

評価結果についての報告がありました。

これまで説明した内容ともかぶる部分もあったかと思いますが、特にご質問があれば受けたいと思いますけども。よろしいですか。

それでは評価結果についてもご承認いただいたということで、次に進めたいと思います。

## (8) その他

《会長》

事務局から何かありますか。

委員さんから何かその他、ご意見があればお伺いします。

それでは特にないということで、用意された議事(1)から(8)までについてはすべ

て終了ということで、進行を事務局に戻しますので、よろしくお願いします。

## 7. その他

《事務局》

それでは資料の26ページをご覧ください。

こちらには南アルプス市地域公共交通会議条例が記載されております。その中の第3条をご覧ください。この第3条には、組織として、この交通会議は委員20人以内で組織し、第2項には、このような方たちが委員として、委嘱または任命をしております。

実はこの中で、運行事業者の山梨交通の労働組合が委員として構成メンバーに入っていないところでしたが、漏れていることが判明されました。

今後、この山梨交通労働組合を加える条例改正を行い、次回からは山梨交通労働組合が、この交通会議の委員としてメンバーに加わり、交通会議を進めていきたいと考えておりますので、ご了承ください。以上となります。

## 8. 講評

《事務局》

次に次第8番の講評に移ります。

アドバイザーの鈴木先生から講評をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

《アドバイザー》

こんにちは。交通ジャーナリスト鈴木でございます。

いつもは議事が終わった後で、講評というような形で意見を述べさせていただいておりますので、途中では言葉を挟みませんでしたけれども、まず南アルプス市コミュニティバスの状況について報告がありました。

非常に利用者が増えている傾向が続いているという形で報告がありましたので、このこと自体は非常に良いことだろうと思いますし、それから、おそらくですけども、やはりこういう公共交通を必要とする人がじわじわと増えているという現れでもあるのかなというふうには思います。

それと今年で10年ということですけども、全国いろんなコミュニティバスがある中で、運行開始してから、漫然と、その時のままで続けているところが実は非常に多いんですが、南アルプス市の場合もうすでに何回も再編、或いはニーズに合わせた改変を行ってきているという点も評価できると思います。それから、やはり鉄道駅のないという事情をベースに、竜王駅或いは東花輪駅へ接続をさせるというようなことで、新たな流れを獲得しているという面があるかと思うので、これは他市というか県内に限った話ではないですけど、全国的なコミュニティバスの傾向からすると、やはりいろいろ改良を加えてきている現れだろうというふうに評価できるかと思います。

ただ先ほど委員の方からもご指摘があったように、全体的に見たときに利用者数が決して多いわけではないということがあります。これはやはり、本当に必要とされる方はもっともっと多分いるだろうと思いますので、もちろん利用促進ということもあると思いますが、この会議の中で私も今まで何度も申し上げてることなんですけれども、せっかく応援という意味を含めた、格安の定期券があるんですから、これをもっともっと、コミュニティバスを今使っていないけれども、自分の将来に必要なだと思うのであれば、応援をするために、この年間3000円の定期券を購入するというような行動に、多くの市民がなってくると、より存在価値も高まりますし、それから将来に持続させるという意味でも、大きな動機になるとと思いますので、そういった意味での定期券の拡販といいますか、市民にもっと意識していただくということは、必要かなというふうに思っております。

それから櫛形西地区のコミュニティタクシーですけれども、これも何度も私、この場で申し上げているように、非常に私は素晴らしい取り組みだというふうに思っています。しかもそれが、これも10年続いているということは、全国にも自慢できる市民の取り組みであり、それから仕組みとしてもこれは結構優れたやり方をされていて、地域の中にはミーティングポイントがあって、乗車するときはそこで乗車をする。それから降りるときは目的地のところで降りる。帰りも同じように乗るときは、幾つかのミーティングポイントで乗車し、帰りは自分の家の近くに来たら、自宅で降りられるというような仕組み。これはまた非常にこういった地域のデマンド型の公共交通を構築するにあたって、非常に良いやり方だろうなというふうに思っています。

そういうのを含めまして、今後そのデマンドの実証実験を行うということで、これから計画案を作られるということですが、私は櫛形西地区で今までやってきたこと、これを十分に参考にして、できれば新たなデマンドを、実証実験を行う地域についても、なるべく地域の人たちが主体的に関わるような形を考えていただけると、より良いかなというふうに思っています。そのことによって、自分たちが構築してきた、自分たちが使いやすいようなものを、自分たちで作っていくという意識を持っていただくことで、ちゃんと利用にも繋がるということになっていくかなと思います。

私も幾つものデマンド交通の実証実験をやったり、或いは本格運行に移行したりというようなことを、数限りなくというほど多くはないですけれども、全国各地でいろいろ関わってきております。

そういう経験から言いますと、実証実験で、利用者だとか、或いは収支だとか、そういう意味でいい結果が出たところはほとんどありません。これはやはり、よりその狭い地域の個別の利用が対象になってきますので、コミュニティバスなどに比べると、例えば1人当たりの財政負担がものすごく大きくなったりというような結果がどうしても出ます。先ほど言いましたように、今はこういうのは、別に車運転してるから必要ないんだけど、将来は必要だなという声非常に今大きい時期にもなりますので、実際の利用にはなかなか繋がらないケースが多いのが、現実です。ですから、そうそういうときに、地域の人の関わりをどうするのか、或いは将来必要だというんだったら、今何が必要なのか、そうい

うことが検証できるような仕組みを作りながらやっていくことが必要かなと思います。

特にデマンドが陥りやすい、利便性だけを求めてしまって、単なる安いタクシーになってしまうケースが全国で非常に多い。これは逆にタクシーを圧迫することにもなりますし、タクシーが撤退したらどうしようもない話ですから、その辺も全体のバランス、全体のネットワークを考慮しながら計画を作っていただければというふうに思います。

会長がおっしゃったように、デマンド、非常に難しいです。ですから、完璧な成功を求める必要はないですけども、やはりこの地域に適したデマンドってどんなのかということ十分に考えながら、今後の計画を作っていただければというふうに思います。

以上、講評にかえさせていただきたいと思います。

## 9. 閉会

---

《事務局》

次に次第の9番になります。

閉会の言葉を、篠原副会長お願いいたします。

《副会長》

それでは長時間にわたり、ご審議ありがとうございました。

これをもちまして、令和7年度第1回南アルプス市地域公共交通会議を終了させていただきます。お疲れ様でございました。

《事務局》

ありがとうございました。

次回は1月頃に第2回地域公共交通会議の開催予定です。

ご協力をいただきありがとうございました。